

令和元年度 市民ニーズ調査 報告書(概要)

公益財団法人多摩市文化振興財団
令和元年10月31日(木)

1 多摩市に暮らす方々はどのような人たちか？(2019年10月現在)

①多摩市(多摩NT)の開発史を振り返ると…¹

1)昭和25年(1950)～昭和48年(1973)

・戦後の復興期²と高度経済成長³を通じた住宅不足解消のために多摩NT誕生⁴

●準工業地域は不可 歩道車道の分離等、郊外型ベッドタウンとしてのまちづくり。

●昭和46年(1971)多摩町が市となる(当時の人口約3万人)⁵。

2)昭和48年(1973)オイルショックに端を発し、高度経済成長終焉。経済安定期へ。

・経済安定期、多摩NTの開発は継続。鉄道は延伸⁶。そして住宅は供給過多に。

●住都公団はタウンハウスなど住宅を「量から質に」転換。緑地率の高さもあり突出してユニークな都市景観となり、「街全体が公園のようだ」と評価されている(wikiより)

3)バブル景気(平成元年1986～平成3年1991)を経て、経済停滞期へ。失われた20年。

・人口は横ばい・安定期に入る。

●平成2年(1990)145千、平成12年(2000)146千、平成22年(2010)148千。

4)平成24年(2012)、第2期安倍政権。経済は復調傾向にあるが実感なき経済成長とも。

・2019年「年少人口の減少、生産年齢人口の減少、高齢人口の急増」進行中。

●今後は人口減少が見込まれている。

1「写真集 多摩ニュータウン今昔」多摩市文化振興財団2005 他より

21950昭和25～1954昭和29/5年間 31954昭和29～1973昭和48/19年間

41965昭和40 多摩NT都市計画決定 1966昭和41日本住宅公団 多摩NT造成工事着手 1970昭和45公募 入居開始

5その後平成7年1995までは人口増 (平成7年1995 148千人;人口ピーク)

6小田急多摩線(昭和49年小百合ヶ丘～永山駅開通。平成2年唐木田駅まで開通)。京王相模原線(昭和49年よみうりランド～多摩センター駅開通。昭和63年橋本駅まで開通)

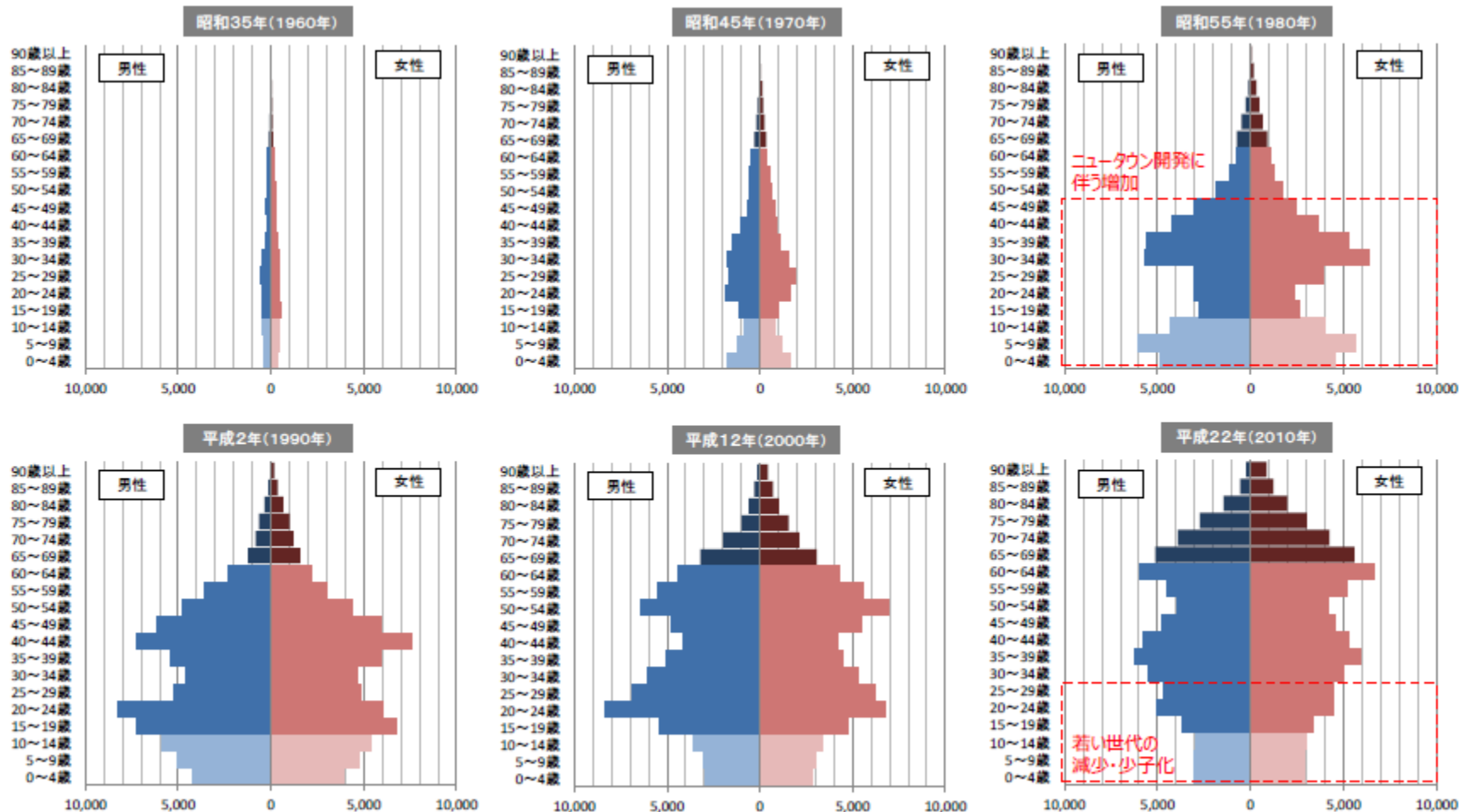
②人口構造の変化を見ると…

1 多摩市に暮らす方々はどのような人たちか？

●2019年11月現在148,935人。

- ・開発期に増加した世代(当時30~40歳代)の高齢化が進行中。
- ・開発期の入住民が住み続ける一方、その子どもが成長するに従い転出する傾向もあるよう。

【人口構造の推移(人口ピラミッド) 50年間の変化】



③ 転出入(人の入れ替わり)を見ると¹...

- ・昨今は近隣エリア間の流出入が多い。
- ・転出入は減少傾向だが、年間8%位が入れ替わっている。(転出入計/多摩市人口)²

■ 転入の状況 (地域別詳細)

～近隣自治体からの転入が多い～



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告（平成26年）

- ・転入元は八王子市が最も多く、府中市、調布市、日野市、町田市、稲城市など近隣の多摩地域からの転入が多い
- ・東京23区では、多摩地域に隣接する世田谷区、杉並区からの転入が多い
- ・東京都以外では、近隣の川崎市、横浜市、相模原市からの転入も多い

■ 転出の状況 (地域別詳細)

～近隣自治体への転出が多い～



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告（平成26年）

- ・転出先は八王子市が最も多く、府中市、日野市、町田市、調布市、稲城市など近隣の多摩地域への転出が多い
- ・東京23区では、多摩地域に隣接する世田谷区への転出が多い
- ・東京都以外では、近隣の川崎市、相模原市、横浜市への転出も多い

¹ 平成26年

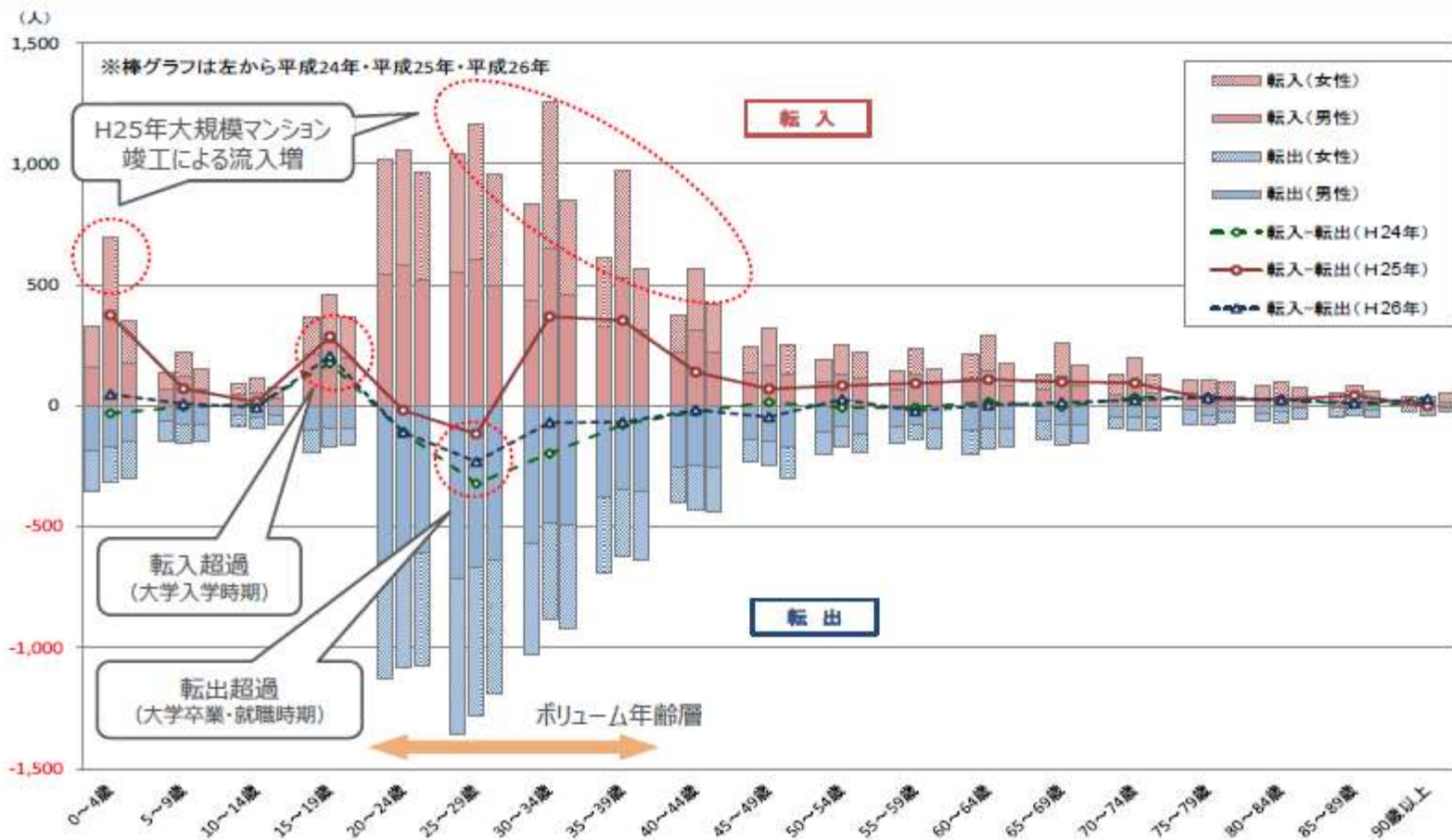
² 東京都の人口移動率は6.7%(H30 東京都住民基本台帳人口移動報告)

④ 年代別転出入を見ると…。

- ・20代、30代の転出入が多い。
- ・大学入学期の転入が多く、大学卒業期、就職期に転出している傾向。
- ・大規模マンションが竣工すると子育て世帯の流入が突出する。

■ 転入・転出の状況（年齢5歳階級別）

～20・30歳代が転入・転出とも多い～



出典：総務省 住民基本台帳人口移動報告（平成24・25・26年）

⑤流出入(ヒトの移動)を見ると¹…。

- ・市民の就業・通学者のうち、7割が市外に就業・通学。多摩地区と23区へ。
(流出48,458人)
- ・流入は八王子からが最多。その他多摩地区。世田谷区等から。
(流入42,641人)
- ・市内で就業・通学(市内21,939人)
- ・昼間人口は増加傾向。昼間人口/夜間人口98.6%²。

■ 流出の状況 (地域別詳細)

～近隣自治体と都区内への就業・通学が多い～

■ 流入の状況 (地域別詳細)

～近隣自治体からの就業・通学が多い～



出典：国勢調査(平成22年)



出典：国勢調査(平成22年)

・八王子市が最も多く、府中市、調布市、町田市、日野市、稲城市など近隣の多摩地域への流出と、新都区、千代田区、渋谷区、港区、世田谷区など23区への流出が多い
 ・東京都以外では、近隣の川崎市、横濱市などへの流出も多い
 ・流出総数のうち、上位10自治体で約6割を占める

・八王子市が圧倒的に多く、町田市、日野市、府中市、稲城市、調布市など近隣の多摩地域からの流入が多い
 ・東京23区では、多摩地域に隣接する世田谷区からの流入が多い
 ・東京都以外では、近隣の川崎市、相模原市、横濱市からの流入も多い
 ・流入総数のうち、上位10自治体で7割超を占める

1 平成22年 15歳以上 就業地 通学地

2 以前は夜間人口が昼間人口の1.38倍(昭和60年1985)。就労就学の機会増+リタイア世代が昼間人口となった。

⑥その他の人口動態特徴・・・

●市民の所得水準は398万/年。 91位/全国1741市区町村。

大卒比率37.3% 31位/243首都圏市区町村

(相対的に高学歴高収入の住民が多い。中上位層が多い)

●小学生6,883人(ピークS59 13,876人) 中学生3,037人(ピークS62 7,423人)

(現在0～14歳(年少人口)17,734人;12%、15歳～64歳98,996人;67%(生産年齢人口)

65歳～30,907人;21%(高齢者)¹ 小中学生はピークから半減。

(中学生の不登校生徒出現率4.68% 一クラスに1～2人は不登校²)

●今後の人口予測では、‘20年147千人、’30年139千人、‘40年127千人。

10年ごとに10千人ずつ減少見込み

●就業者の市外就業率 女性は54% 男性77%。

(就業者66,741人 男35,233人、女26,310人)

●外国人居住者は2,369人(R元 10月) 過去10年で微増。

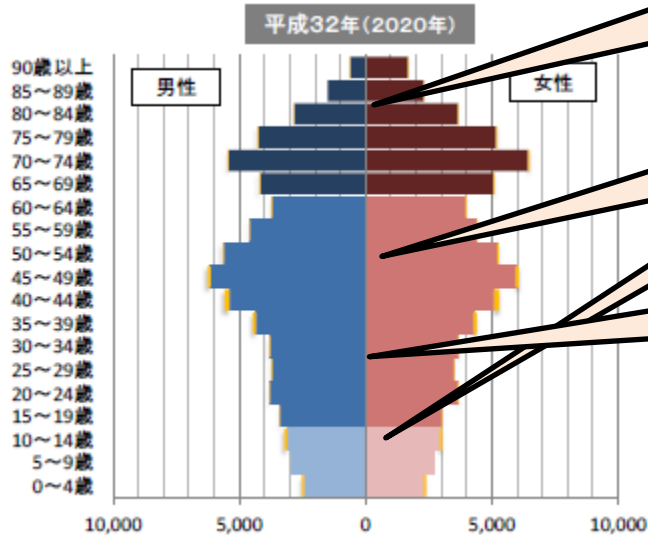
1 平成22年(2010) 国勢調査

2 平成29年度(2017) 【不登校等に関する結果まとめ】平成30年7月 多摩市教育委員会

* そのほかデータは多摩市人口ビジョン検討資料(平成27年) などより

⑦ まとめ 多摩市民(パルテノン多摩のお客さま)の現状

●人口149千人は3クラスタに大別



①多摩NTに移住し定着し高齢化しているアクティブなシニア世代^{1,2} 増加

②都心、近隣市に就労、就学する3~50代と子どもたち 減少

③流動性の高い20~30代 減少

④大規模マンション竣工で子育て世代が急増する年がある。H25永山とか、昨今の多摩センター

⑤昼間人口増加。(職住接近 リタイア層増加) 1980年代70%台、2010年98.6%³

⑥流入人口(約43千人;市外から多摩市で働き、学ぶ)は約29%。

⑦年間8%の方が入れ替わる(多くは2, 30代)。まちへの関心・愛着の薄い層

1 都内65才健康寿命 男性1位 女性2位 要介護認定率も都内で最も低い(多摩市 健幸都市宣言起草委員会資料より)
 2 多摩NT全体 世帯数98千 人口224千(多摩市 八王子市 稲城市 町田市のNT部分 高齢化率=65歳以上 23.8%)
 3 昼間/夜間人口 1985;72.7% 90;96.4% 2000;86.8% 2010;98.6%...2020年大規模国勢調査では？

調査概要①

○調査の目的

- ・パルテノン多摩のこれまでの事業内容や運営を見直し、市民のニーズやウォンツを取り入れた事業展開を推進するため

○調査方法

- ・アンケート: 市民3000名(無作為抽出)に送付。1135件の返送(回答率37.8%)
⇒アンケート結果について、集計・分析を行った。(量的データ)
- ・グループインタビュー: 参加意向120名。うち18名を6グループに分け実施。
⇒インタビュー内容について、集計・分析の補助資料とした。(質的データ)

○アンケート内容

- ・文化への支出金額、創作・鑑賞頻度
- ・事業への興味度、参加度、来館頻度、大規模改修への期待度
- ・他館への来館理由、文化の情報入手経路
- ・文化政策への期待度、文化への市民参加意向
- ・回答者の属性(年齢・性別、居住地域、年収、学歴、幸福度)など全49問

調査概要②

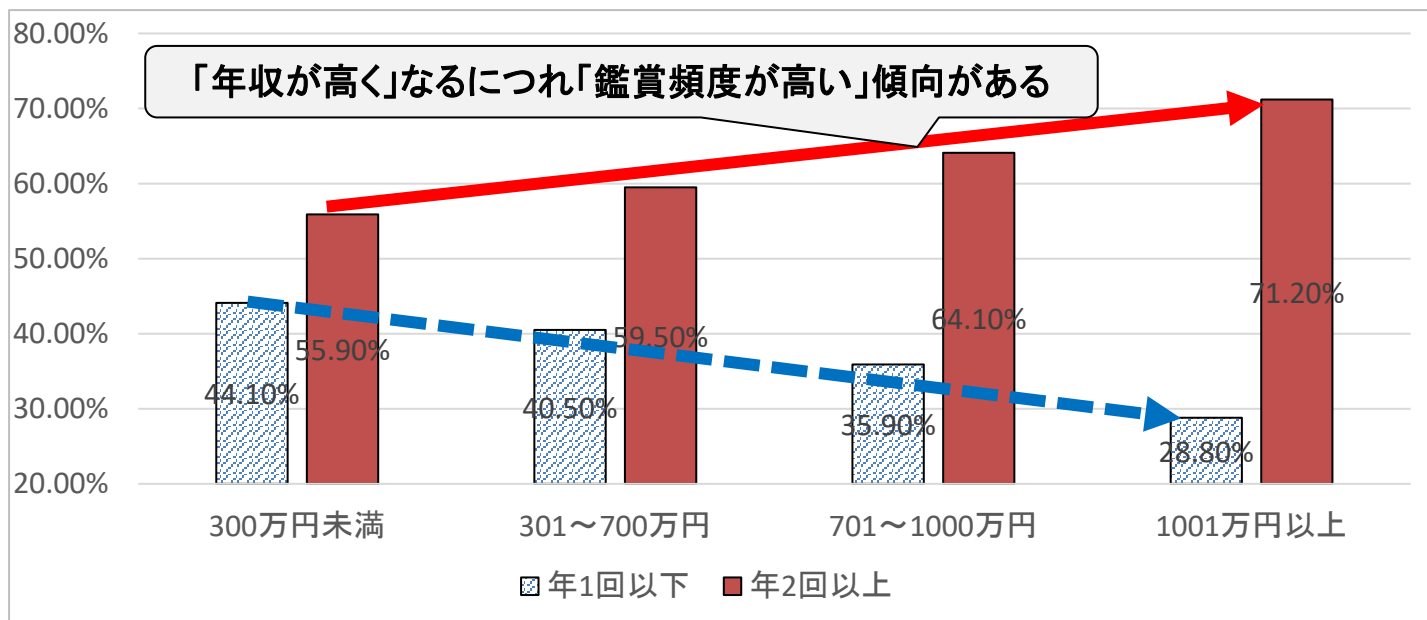
○集計について(単純集計とクロス集計)

- ・単純集計:回答者全員の設問回答を集計し、回答傾向や分布を見る。
- ・クロス集計:主に属性別(男女別、年代別など)の回答傾向を見るために属性と設問をかけ合わせて(クロスさせて)集計し、その差や違いを見る。

例:(設問1-1)過去1年における文化芸術の鑑賞頻度

(単純集計) 年1回以下38.8% 年2回以上61.2%

(クロス集計) 年収別の鑑賞頻度(の傾向)が分かる



調査概要③

○クロス集計について

・キーとなる設問を5つ設定し、他の各設問と重ねあわせて集計した。

① **年齢** (10代.20代.30-40代.50-60代.70-80代) 5グループ

② **性別** (男性.女性) 2グループ

③ **来館頻度** (月1回以上、2-3ヶ月に1回、年に1-2回、数年に1回、不定期、訪れたことはない) 6グループ

④ **年収** (300万円以下.301-700万円.701-1000万円.1001万円以上) 4グループ

⑤ **幸福度** (高い.標準.低い) 3グループ

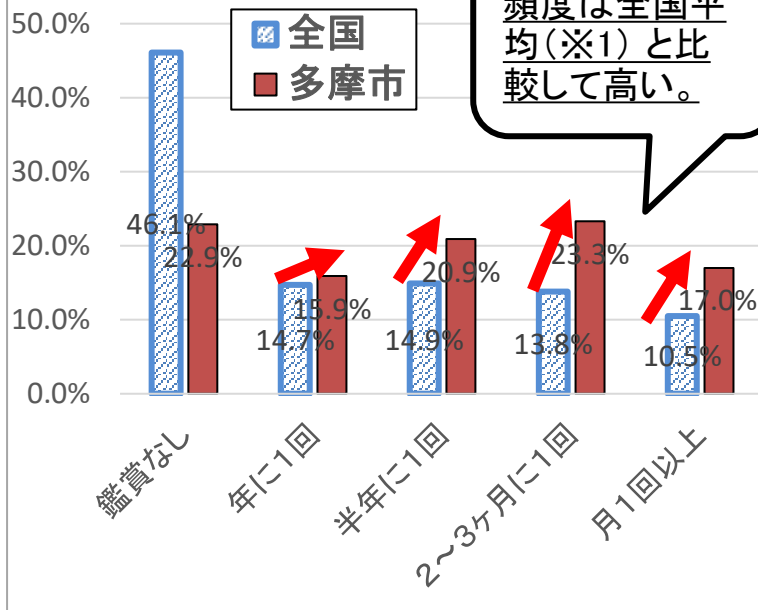
※なお、本来の年齢割合と異なる回答率だったため、本来の年齢割合での回答結果を出すべく、データを補正をしたうえで(単純・クロス)集計を行った。

調査結果(単純集計)①

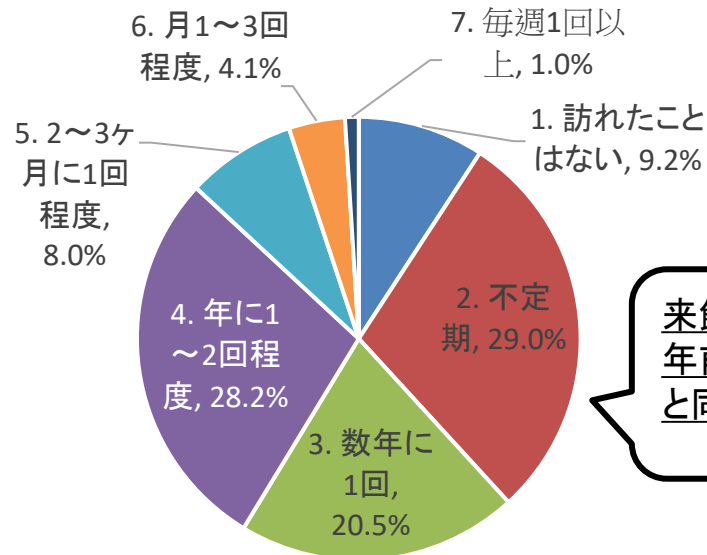
○文化芸術についての市民意識は非常に高い。

○施設の認知度はほぼ100%。一方来館頻度が多くはない。

【1-1】鑑賞頻度



【2-2】来館頻度



来館頻度は3年前の市調査と同水準。

- ・「文化芸術は大切と思う」89.7% 「大切ではない」4.6%(設問3-1)
- ・一方で鑑賞に偏る面もある。創作活動を全くしていない人78.5%(全国79.6%)(設問1-3)
- ・「パルテノン多摩を知っている」99.2% 「知らない」0.8%

調査結果(単純集計)②

○事業や公演の認知は高い。特に「クラシック音楽」

⇒公演としての「クラシック音楽」は市民に浸透し、十分認知されている。「合唱」「吹奏楽」は学校活動との関連があるよう。(設問2-3)

○興味関心のある事業のトップは「映画」、次に「クラシック音楽」

「映画」は他地区でも興味度がトップとなることが多い。「クラシック音楽」への関心の高さは珍しい。パルテノン多摩が良質な「クラシック音楽」鑑賞事業を行ってきた影響か。市民のクラシック音楽ニーズは高い。(設問2-4)

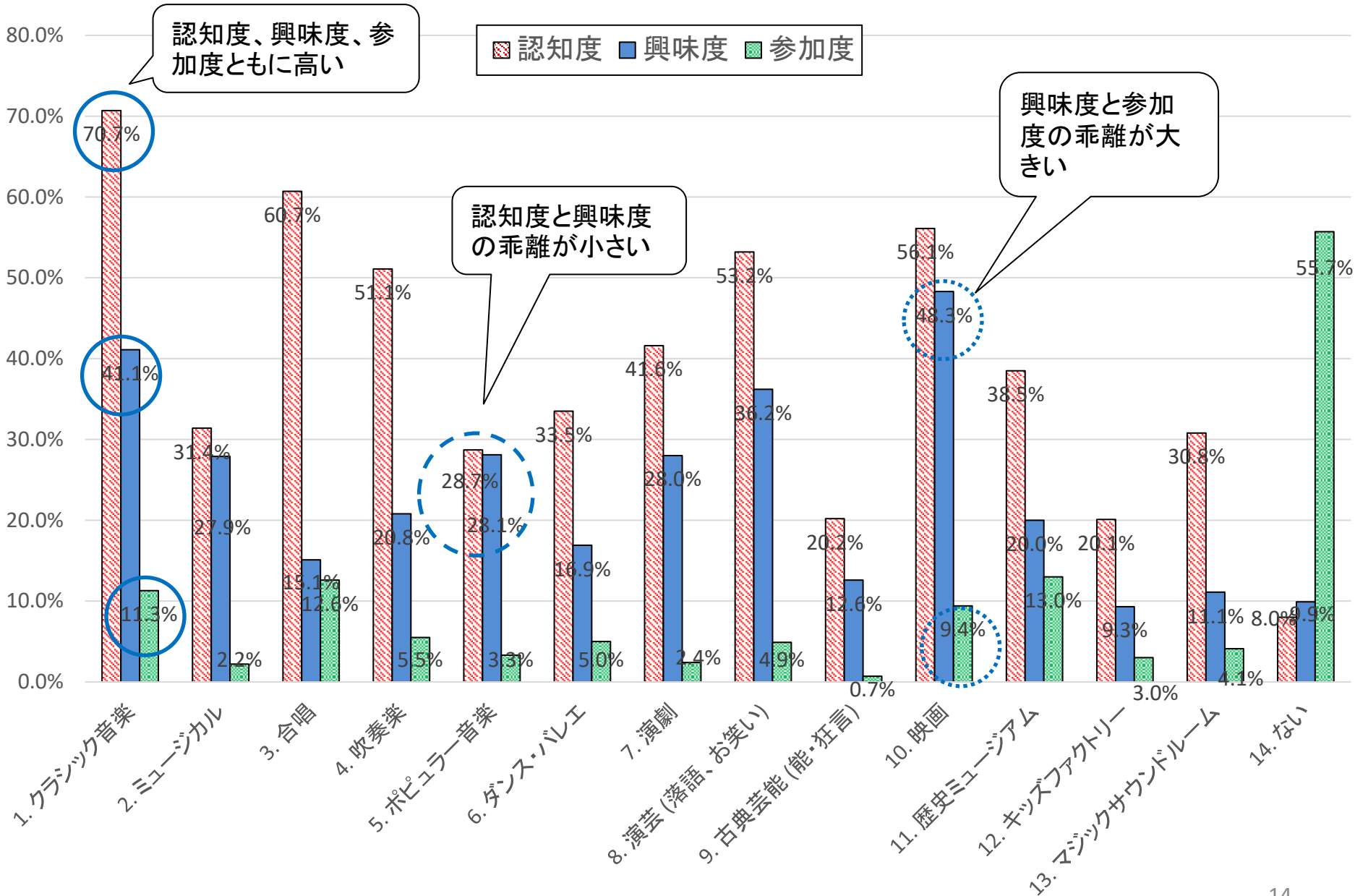
①認知度＝パルテノン多摩のイメージ、これまでの事業や広報活動の成果

②興味度＝そのジャンルにおける来場のポテンシャル(顕在顧客+潜在顧客)

③参加度＝過去1年間に事業を鑑賞・参加した人の割合

・概ね①>②>③の形になっている。

【設問2-3,2-4,2-5】事業の認知度・興味度・参加度



認知度、興味度、参加度ともに高い

認知度と興味度の乖離が小さい

興味度と参加度の乖離が大きい

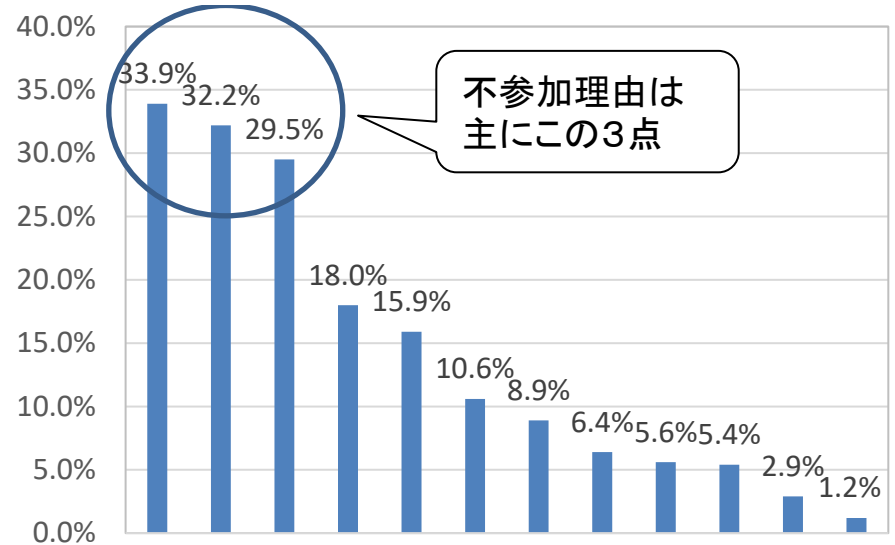
調査結果(単純集計)③

○事業不参加の理由のトップは「仕事や家事で時間的余裕がない」

(設問2-6) 事業不参加の理由

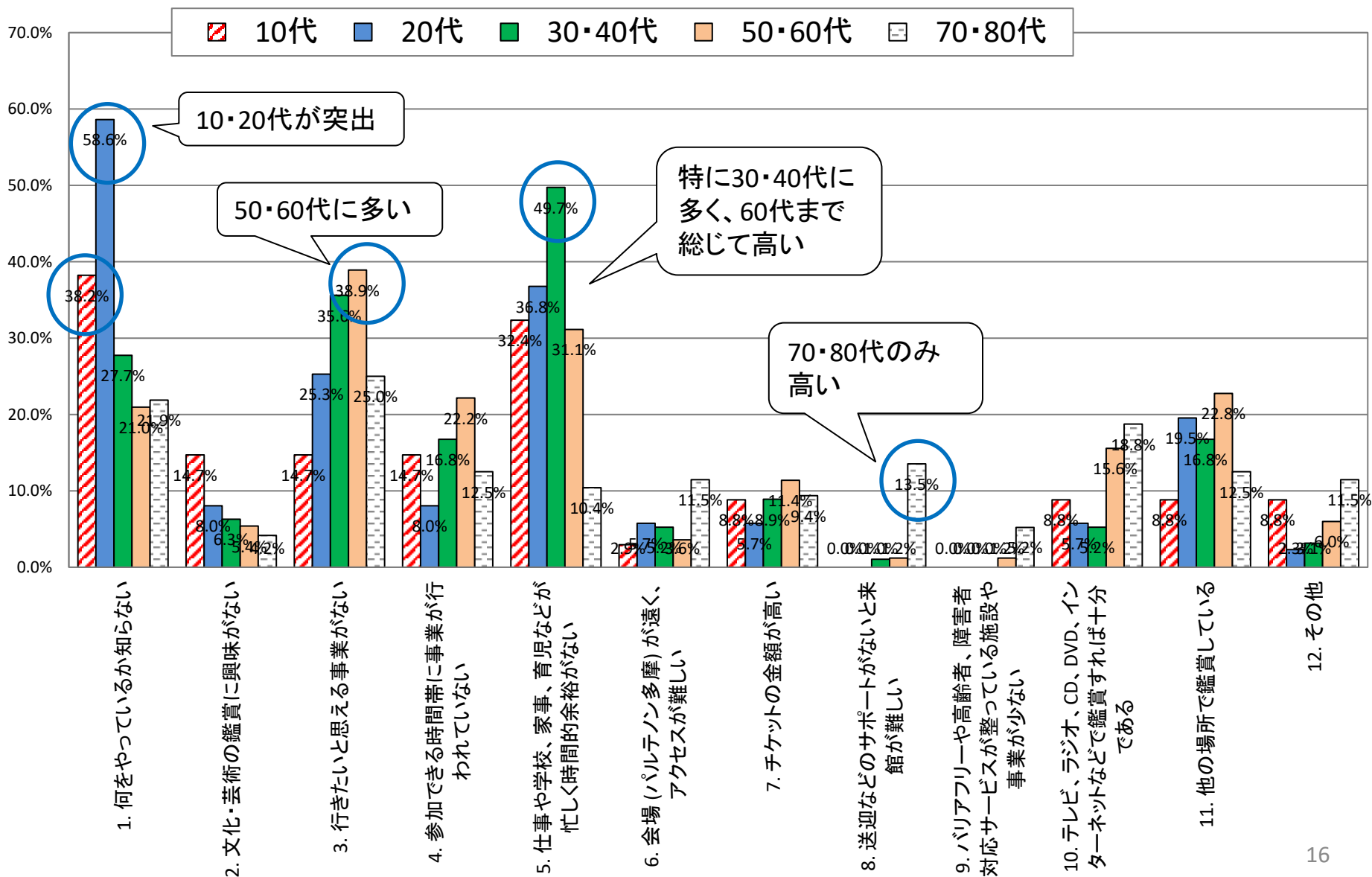
- ・「仕事や家事で時間的余裕がない」
33.9% (30-40代に多い)
- ・「行きたいと思える事業がない」32.2%
(50-60代に多い)
- ・「何をやっているか知らない」29.5%
(10,20代に多い)

⇒利用されていない理由が端的に表れた。



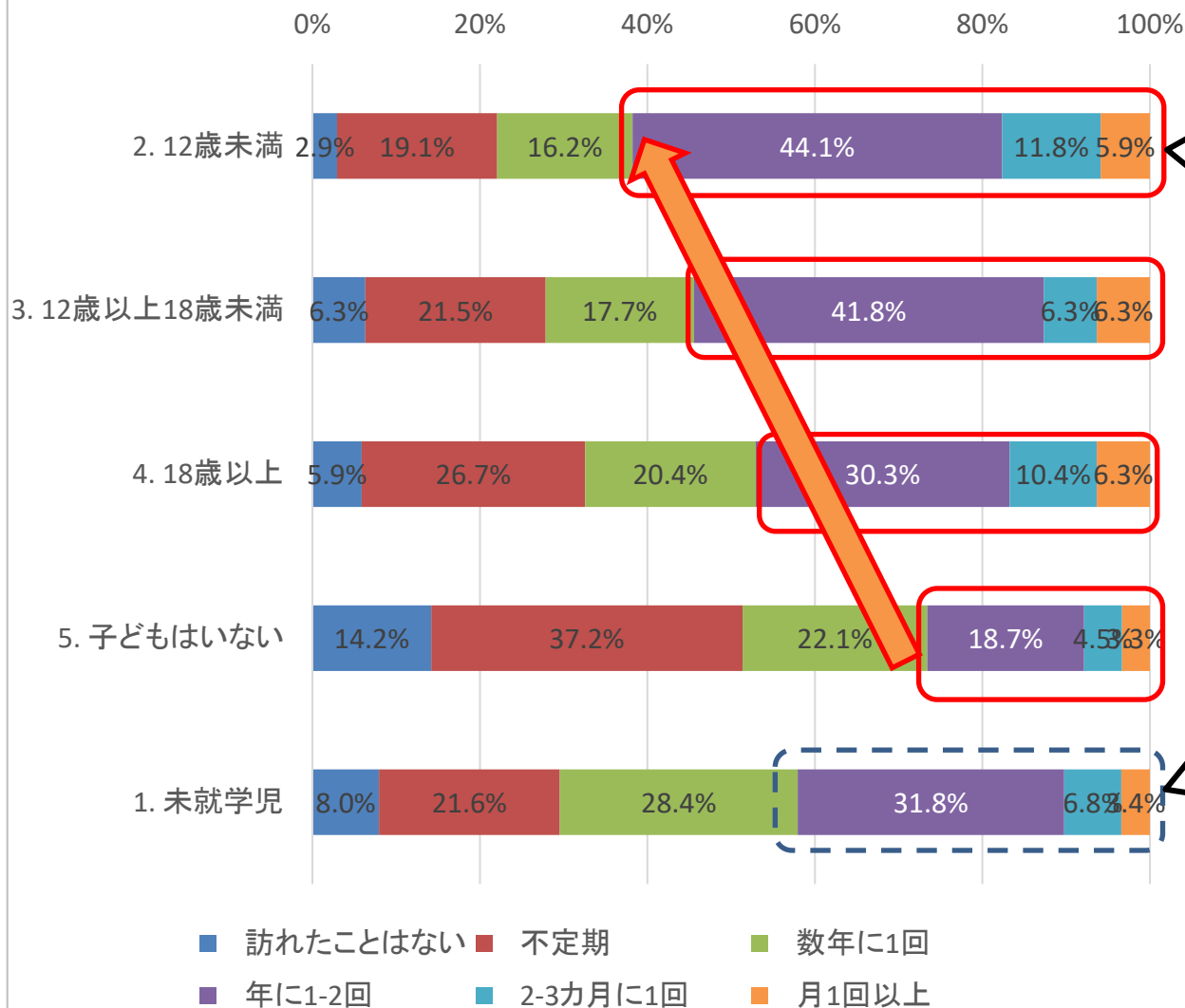
1. 仕事や家事で時間的余裕がない
2. 行きたいと思える事業がない
3. 何をやっているか知らない
4. 参加できる時間帯でない
5. インターネットなどで十分に鑑賞に興味がない
6. チケットの金額が高い
7. 会場が遠く、アクセスが難しい
8. 送迎サポートがない
9. バリアフリー等サービスが少ない
10. その他
11. 送迎サポートがない
12. その他

③参考)〇クロス集計 年齢×事業不参加の理由(設問2-6)



(③参考) ○クロス集計 来館頻度×子供の年齢(設問6-3)

○小さい子供がいる人ほど来館頻度割合が高い

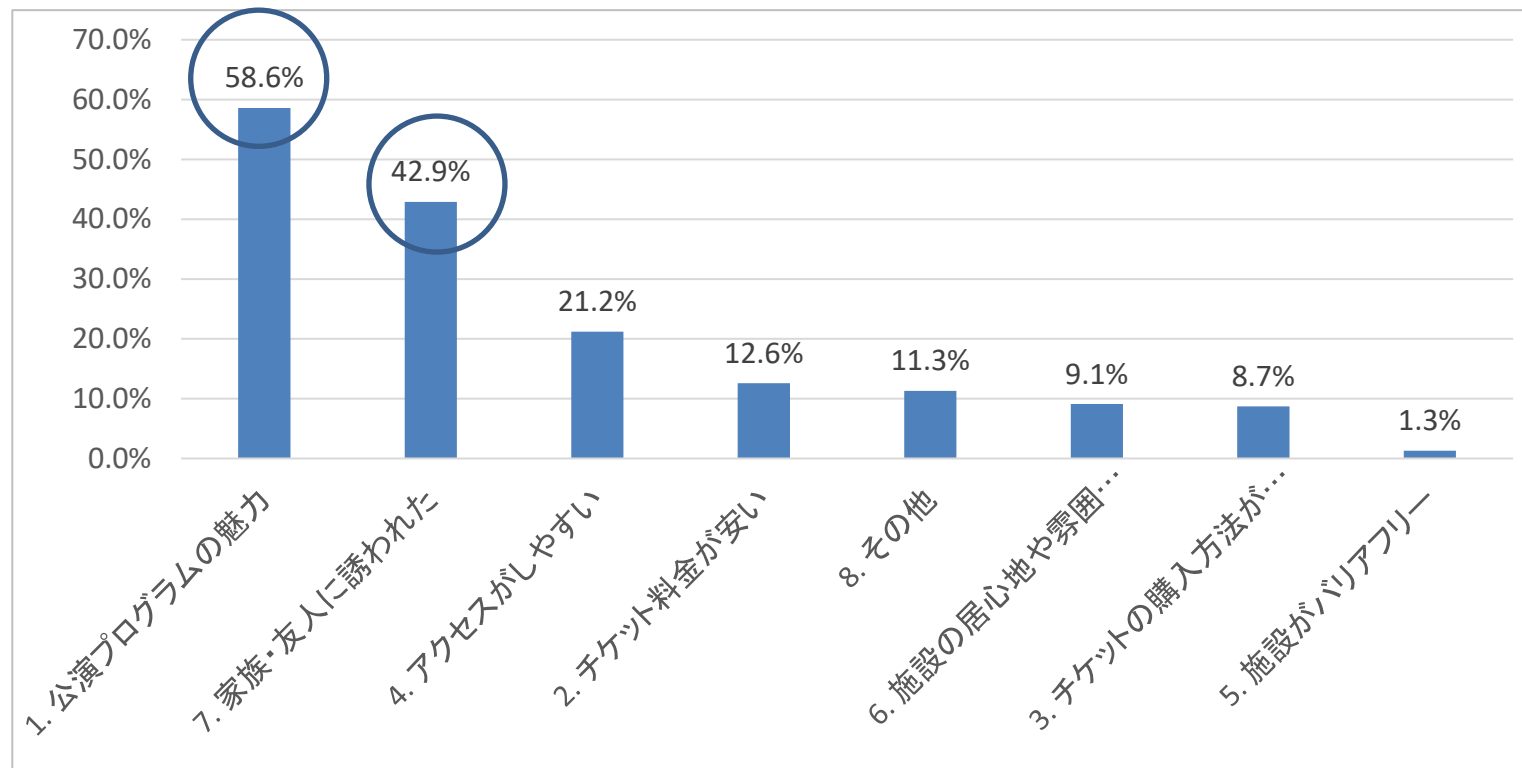


1年間に1回以上来館する人の割合は、子供がいない人26.6%に対し、12歳未満の子供を持つ人61.8%

ただし、未就学児を持つ人は42%と下がる。
⇒未就学児を受け入れる事業・サービスが少ないためか。

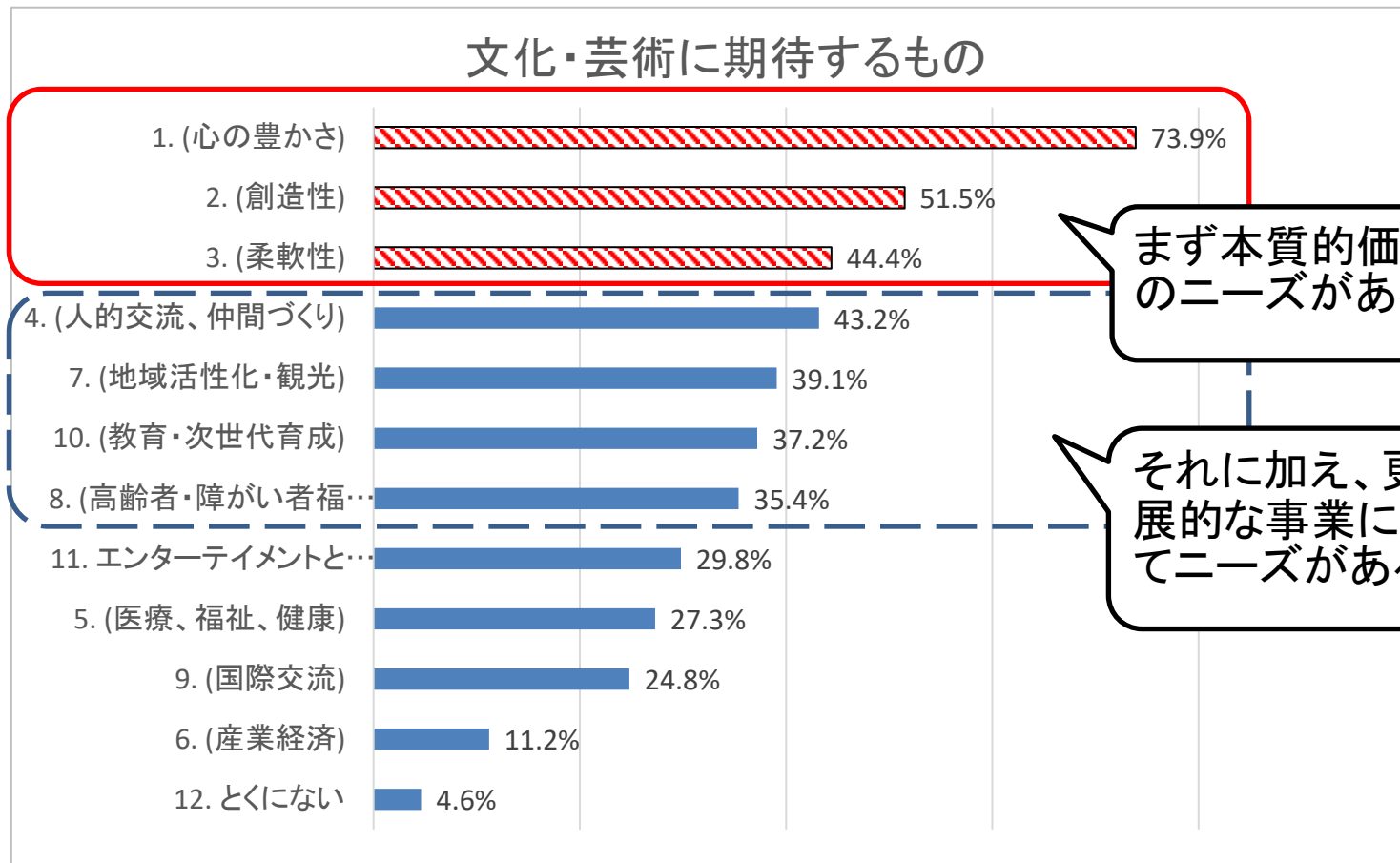
調査結果(単純集計)④

○他館で鑑賞をした理由トップは「公演プログラムに魅力がある」次に、「家族・友人に誘われた」。(設問2-8)



調査結果(単純集計)⑤

○文化芸術に期待するもののトップは「心の豊かさ」(設問3-2)



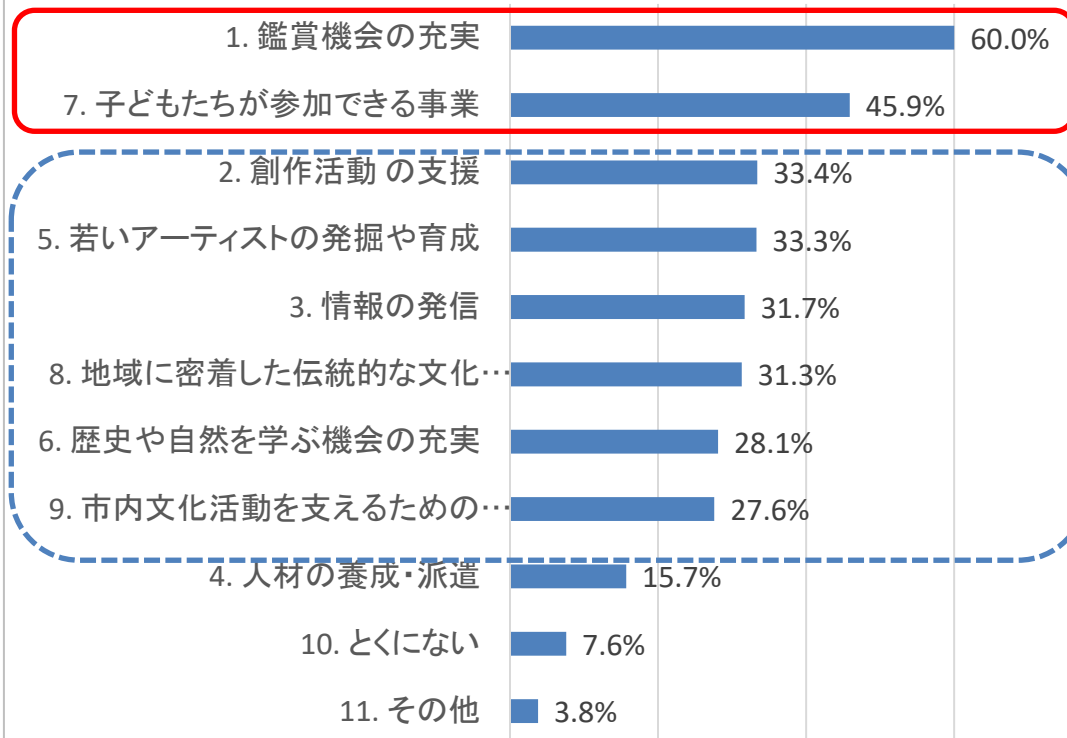
まず本質的価値へのニーズがある

それに加え、更に発展的な事業についてニーズがある

調査結果(単純集計)⑥

○注力すべき文化芸術施策のトップは「鑑賞機会の充実」 (設問3-4)

注力すべき文化芸術施策



「鑑賞機会の充実」
「子どものための事業」に高いニーズがある

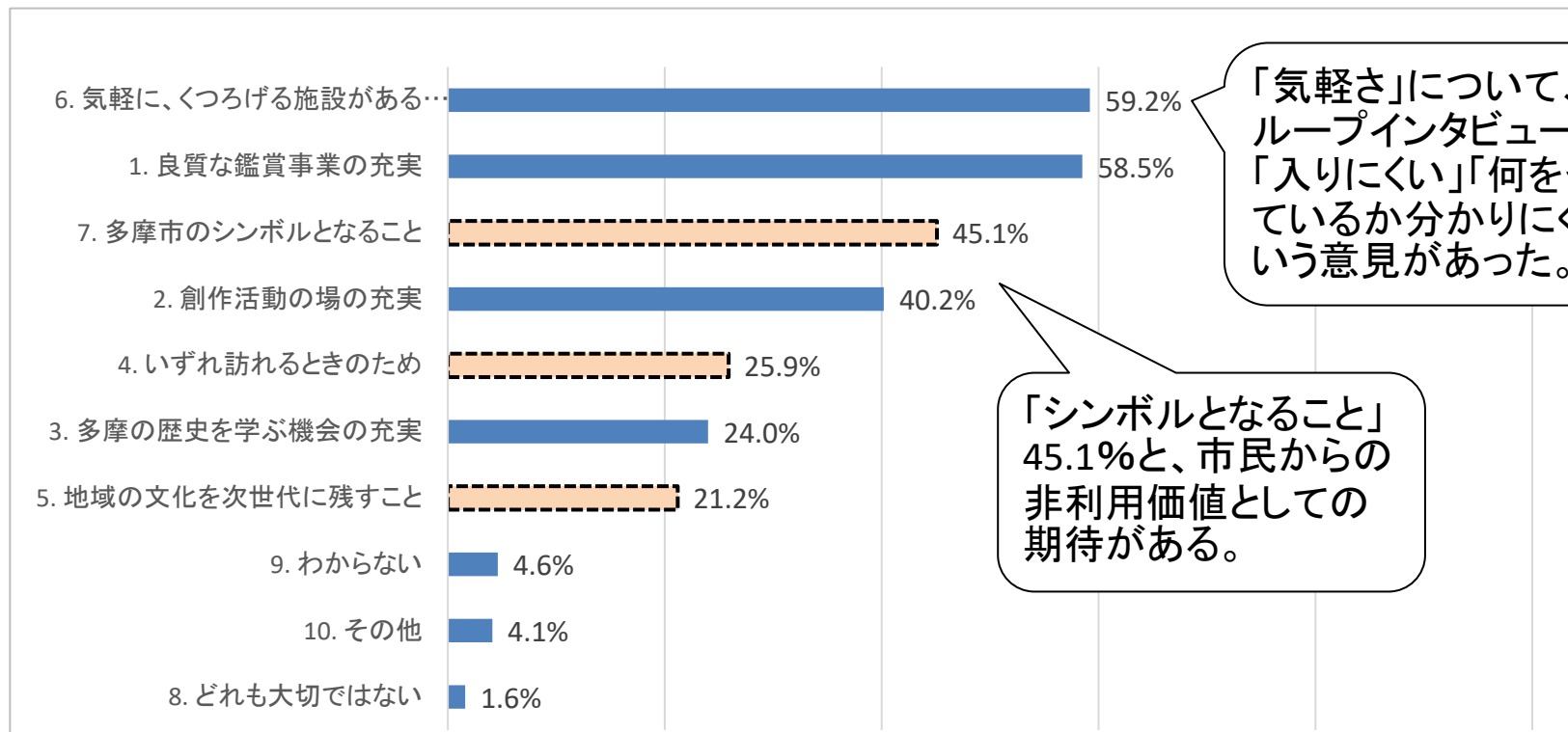
その他の項目も30%
前後のニーズがある

調査結果(単純集計)⑦

○これからのパルテノン多摩で大切なこと(設問4-2)

【利用価値】は「気楽に訪れくつろげること」と「良質な鑑賞事業の充実」。

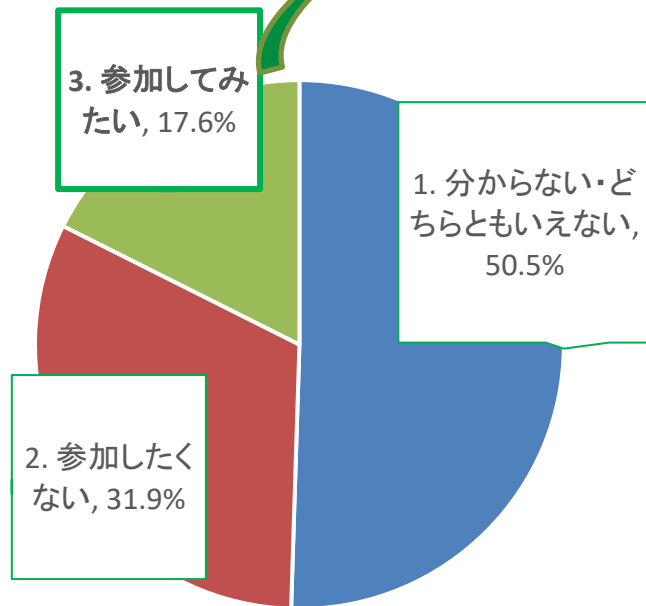
【非利用価値】は「多摩市のシンボルとなること」



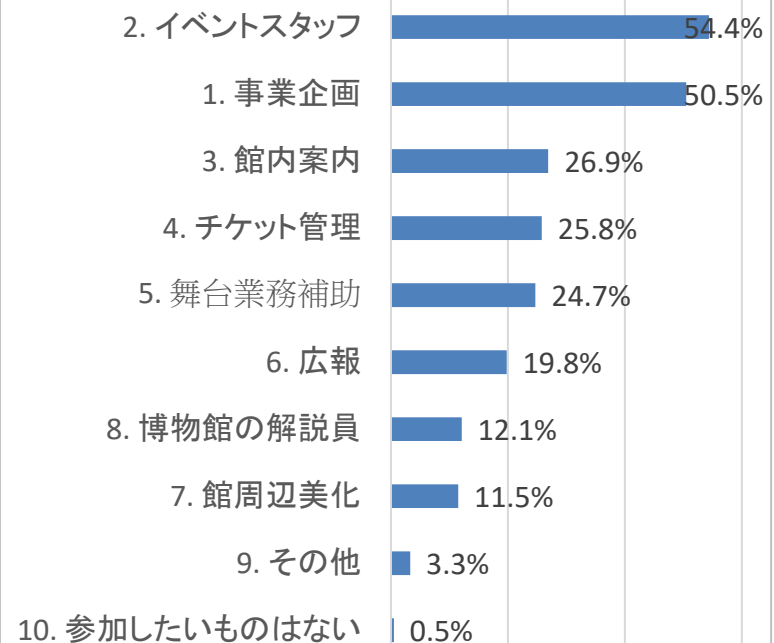
調査結果(単純集計)⑧

○市民運営・市民参加について(設問4-6、4-7)

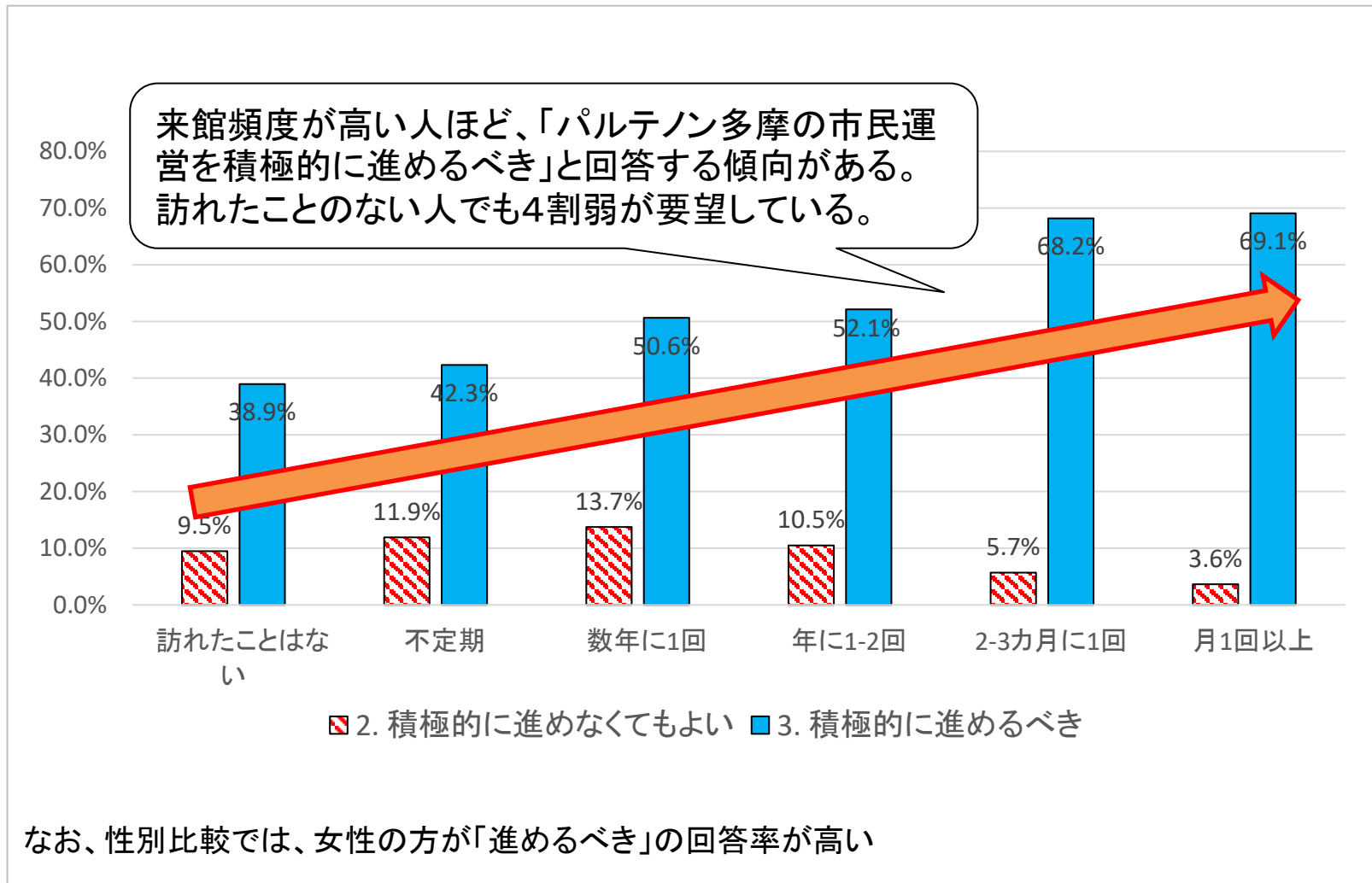
市民運営参加希望



参加を希望する運営内容

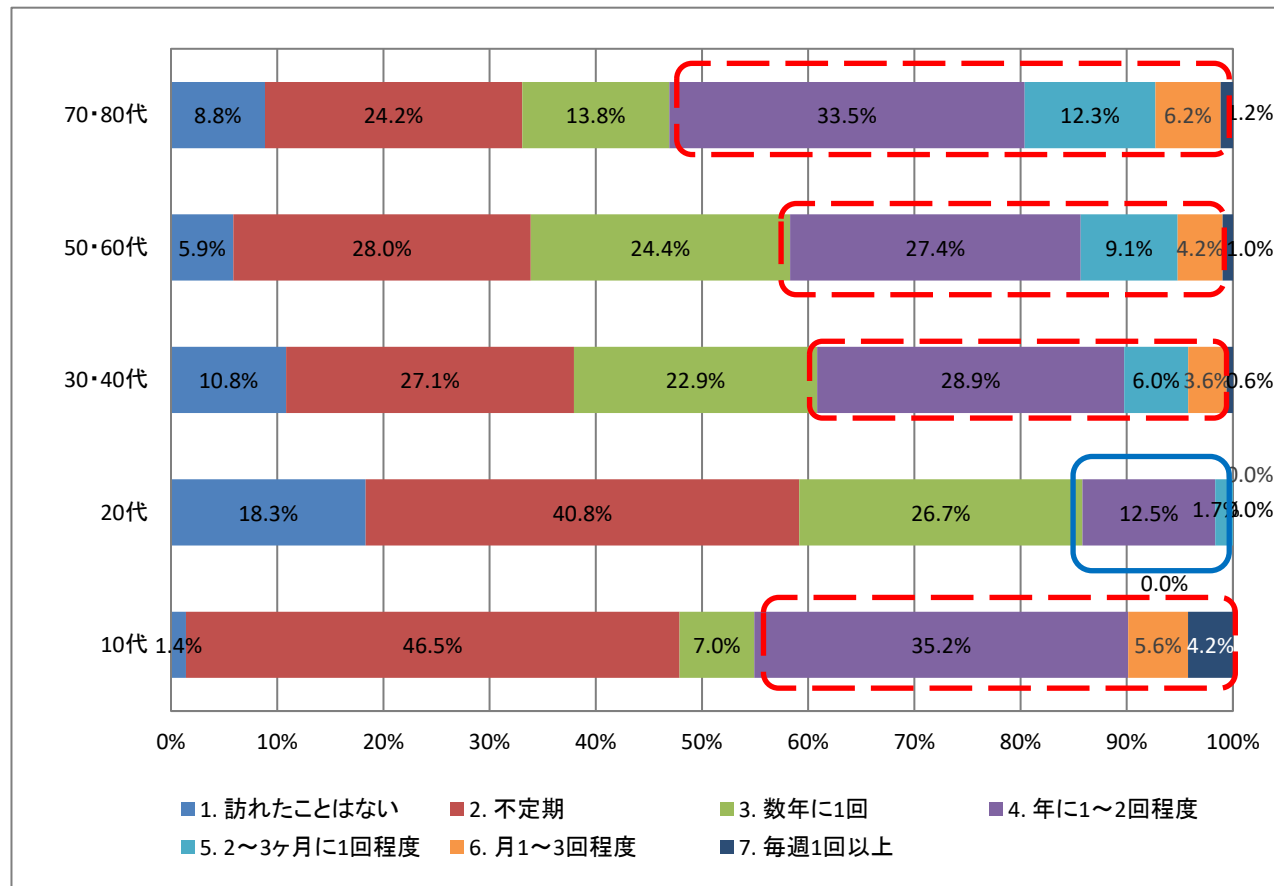


(⑧参考)〇クロス集計 来館頻度×市民運営意向(設問4-6)



調査結果(クロス集計)①

○年齢×来館頻度(設問2-2)



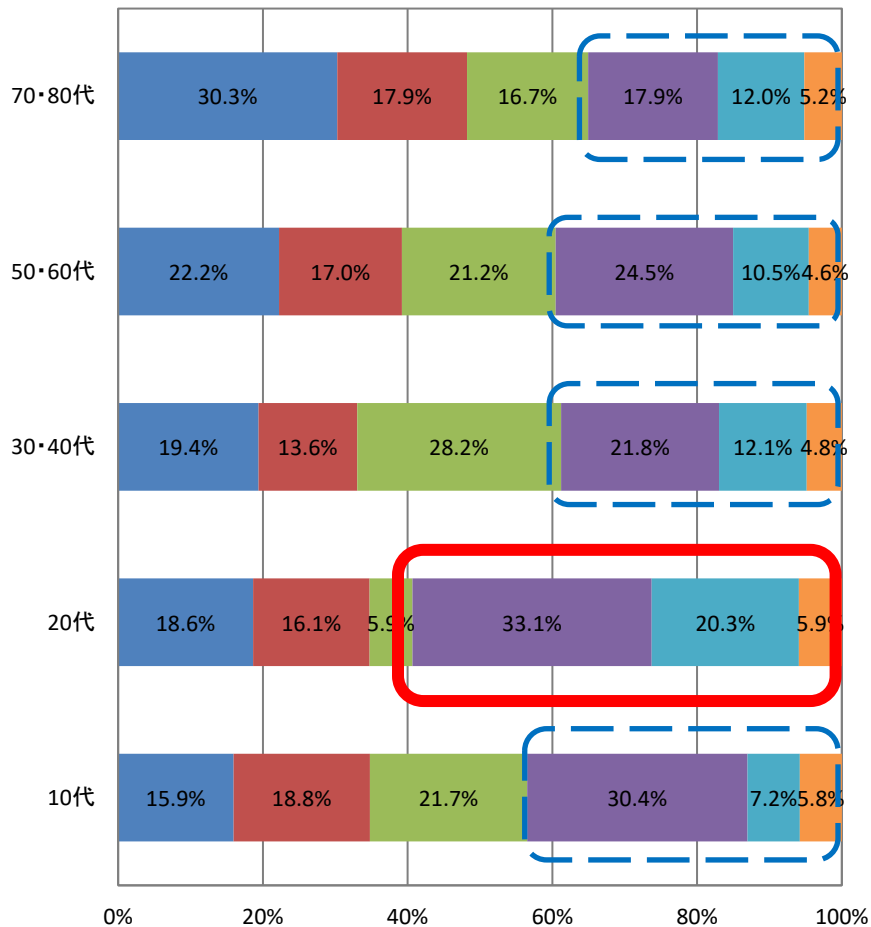
20代のパルテノン多摩への来館頻度は他世代と比較して特に低い。

・高齢層の来館頻度は相対的に高い。

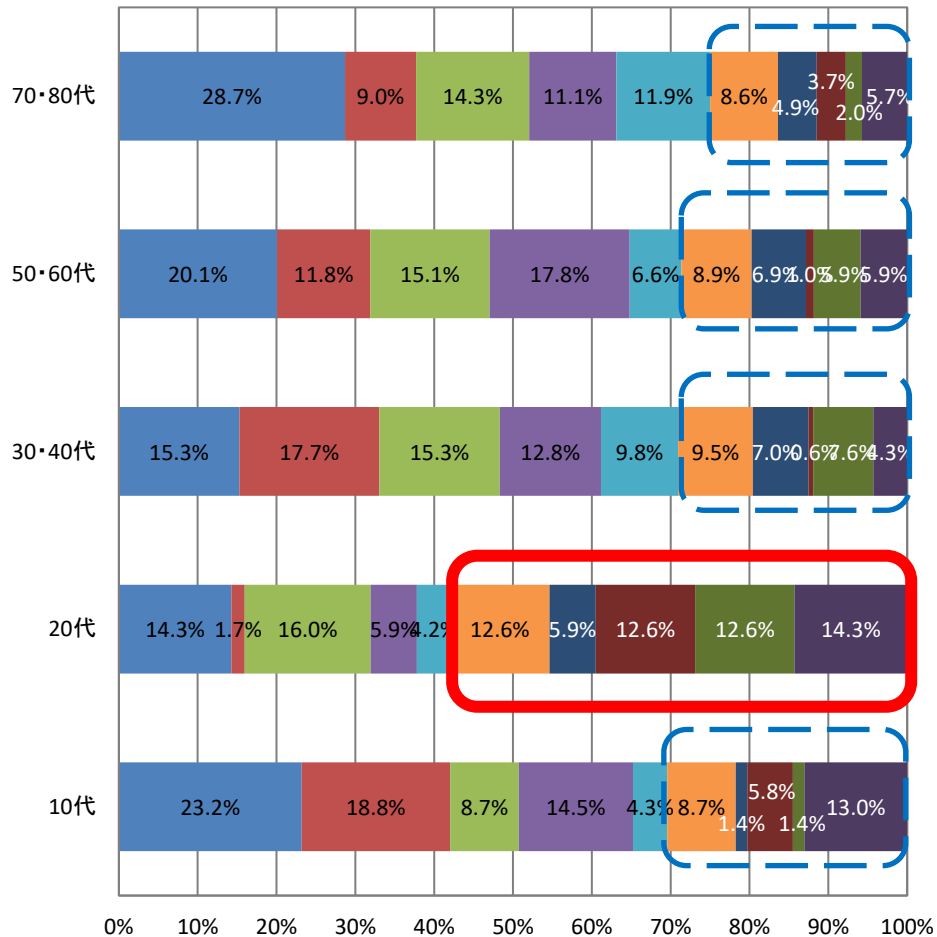
(④参考) ○クロス集計 年代別の鑑賞頻度と支出金額

20代は文化芸術鑑賞頻度と月額支出が大きい

年代 × (設問1-1) 鑑賞頻度



年代 × (設問1-2) 鑑賞支出金額

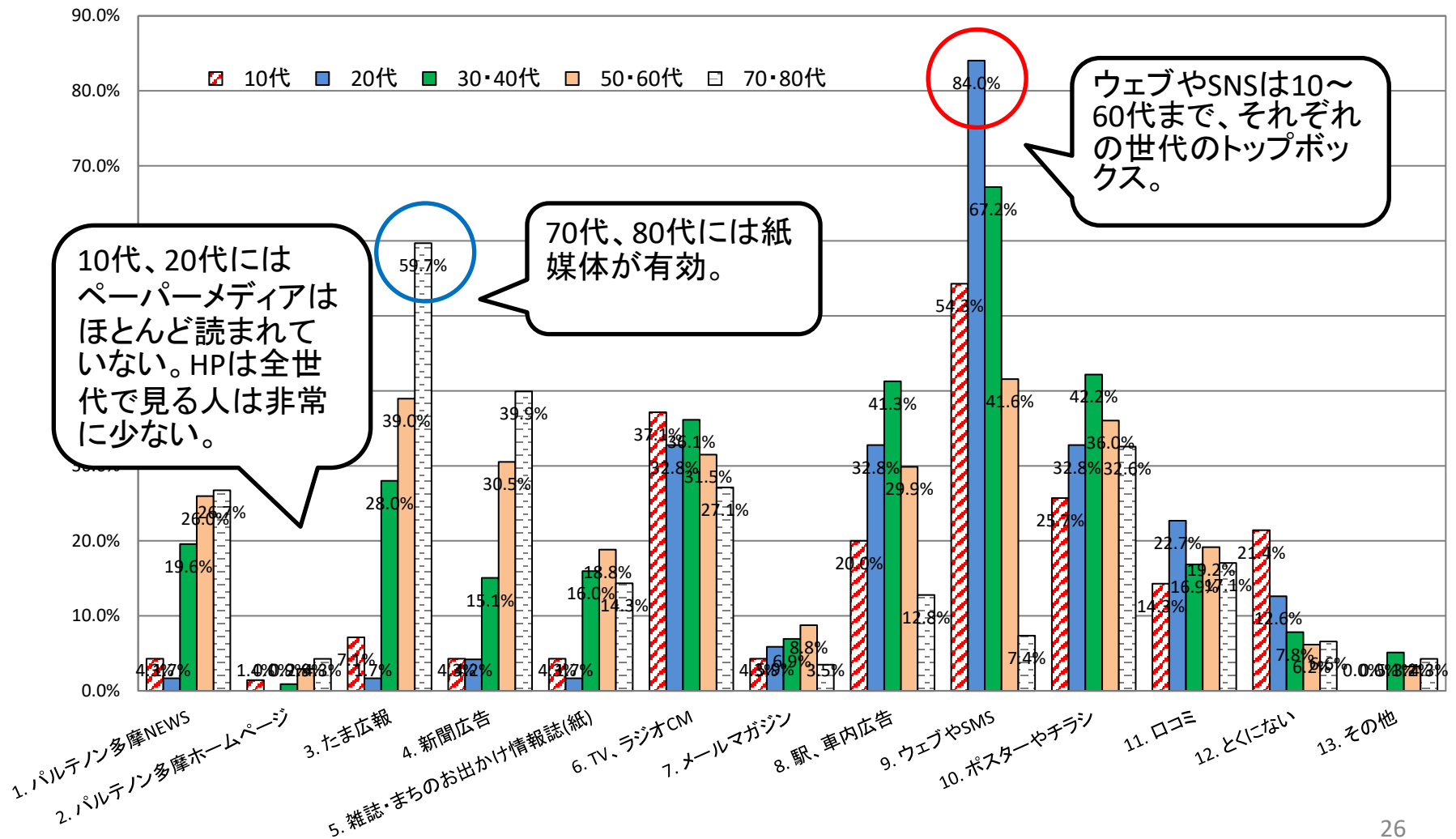


■ 1. まったく・ほとんど鑑賞していない ■ 2. 年に1回程度
 ■ 3. 半年に1回程度 ■ 4. 2~3ヶ月に1回程度
 ■ 5. 月1回程度 ■ 6. 月2回以上

■ 1. 0円 ■ 2. 1円~1,000円 ■ 3. 1,001円~2,000円
 ■ 4. 2,001円~4,000円 ■ 5. 4,001円~6,000円 ■ 6. 6,001円~10,000円
 ■ 7. 10,001円~15,000円 ■ 8. 15,001円~20,000円 ■ 9. 20,001円以上
 ■ 10. 分からない

調査結果(クロス集計)②

○年齢×文化芸術情報入手経路(設問1-4)



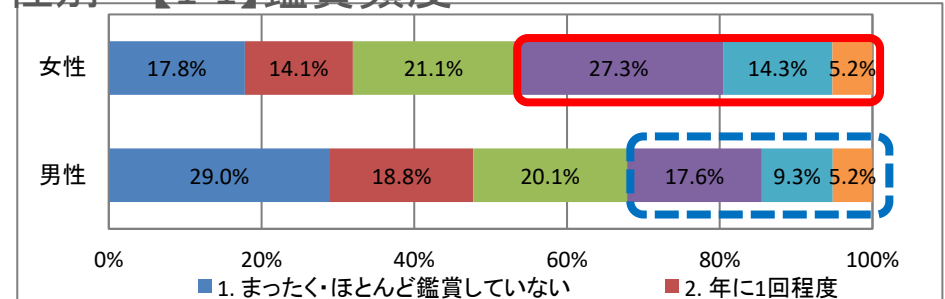
調査結果(クロス集計)③

○性別×文化芸術活動

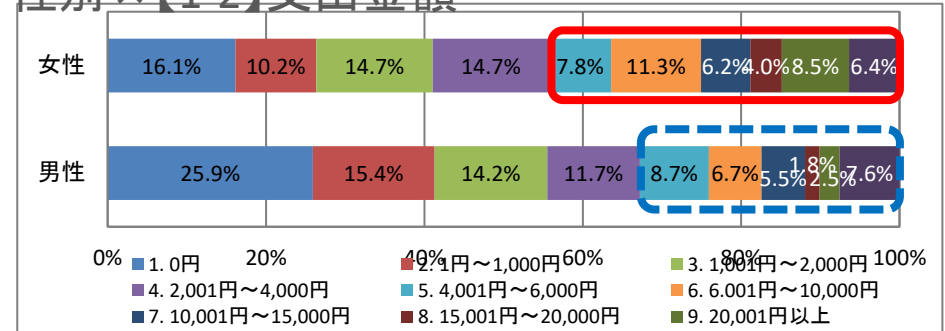
○文化芸術活動は女性の方が男性より積極的

- ・2, 3か月に一回以上鑑賞する人 女性46.8% > 男性32.1% (設問1-1)
- ・月1万円以上支出する人 女性18.7% > 男性9.8% (設問1-2)
- ・2, 3か月に一回以上文化活動を行った人(演奏、演技、制作など) 女性11.6% > 男性4.4% (設問1-3)

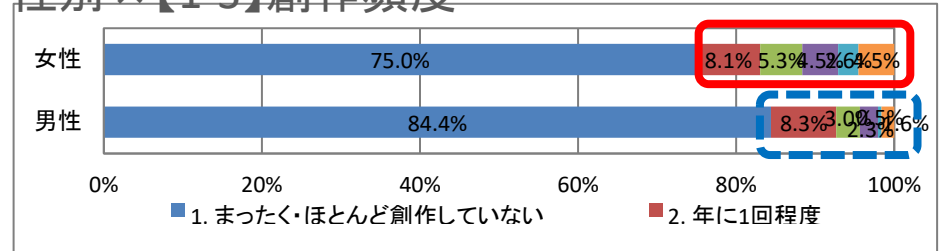
性別×【1-1】鑑賞頻度



性別×【1-2】支出金額

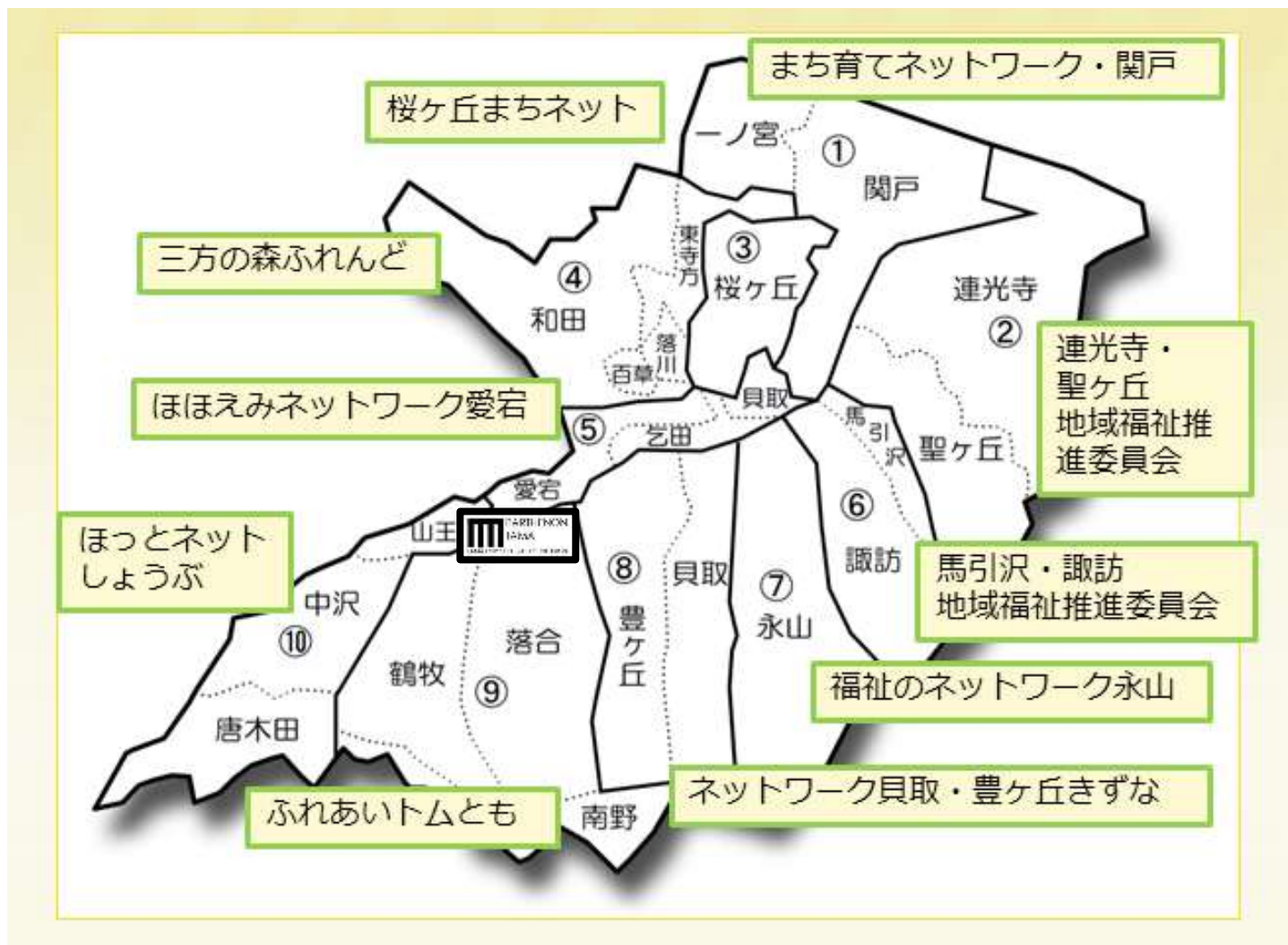


性別×【1-3】創作頻度



(設問6-5) 居住地域

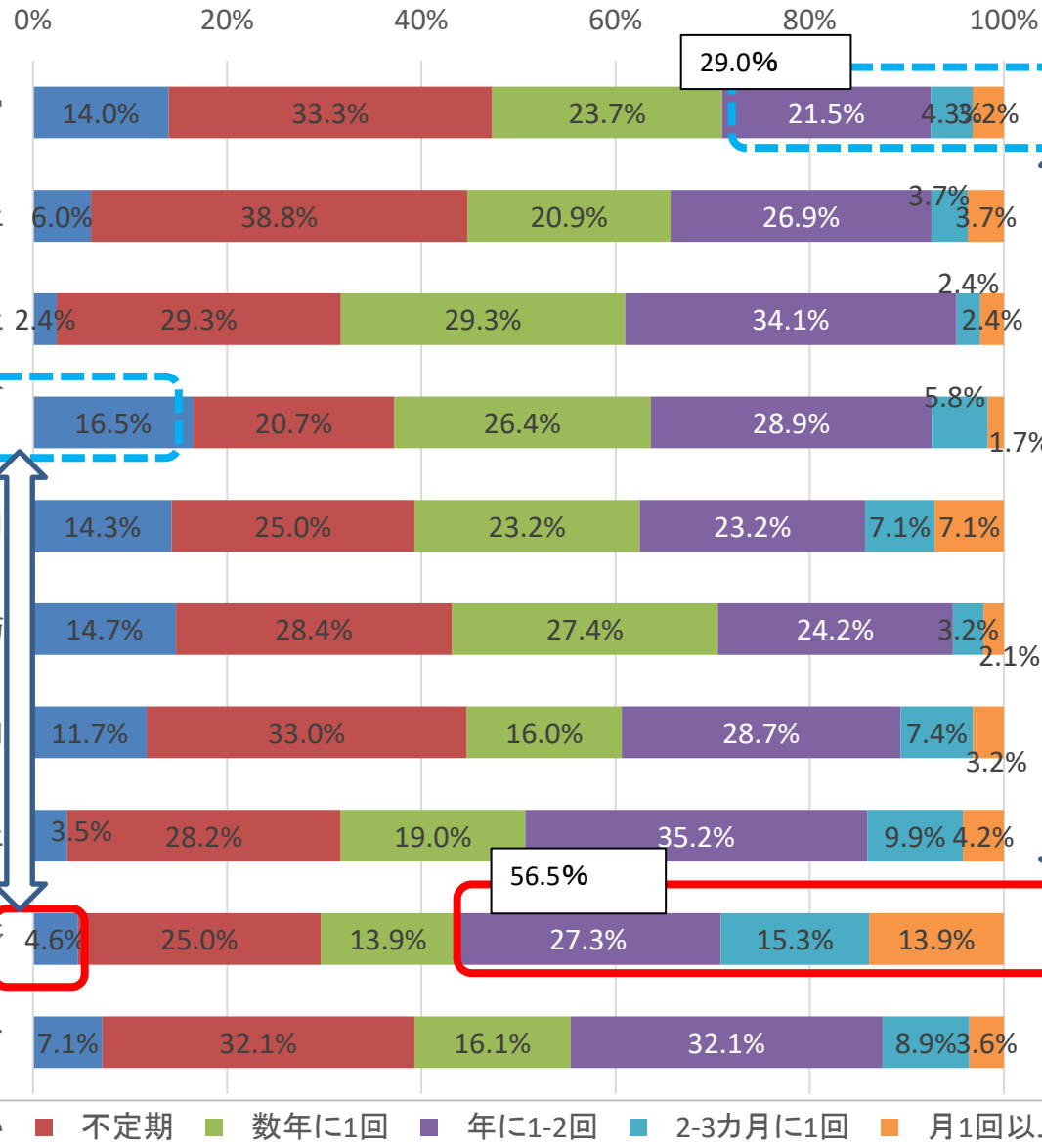
多摩市コミュニティエリアをもとに、居住地域を区分けして分析した。



調査結果(クロス集計)④

○来館頻度×居住地域(設問6-5)

パルテノン多摩の近隣地域ほど来館頻度が高く、距離的隔たりがあると未利用者が増える傾向にある



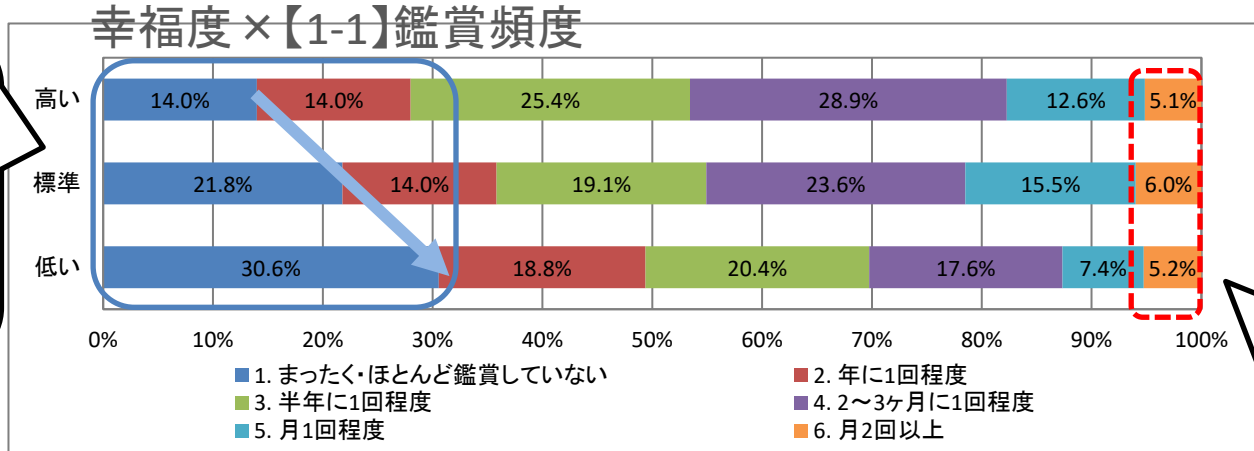
未利用者の割合で、東寺方地域は落合地域の約3.5倍高い

年に1回以上来館する人の割合で、関戸地域は落合地域の約半分

調査結果(クロス集計)⑤

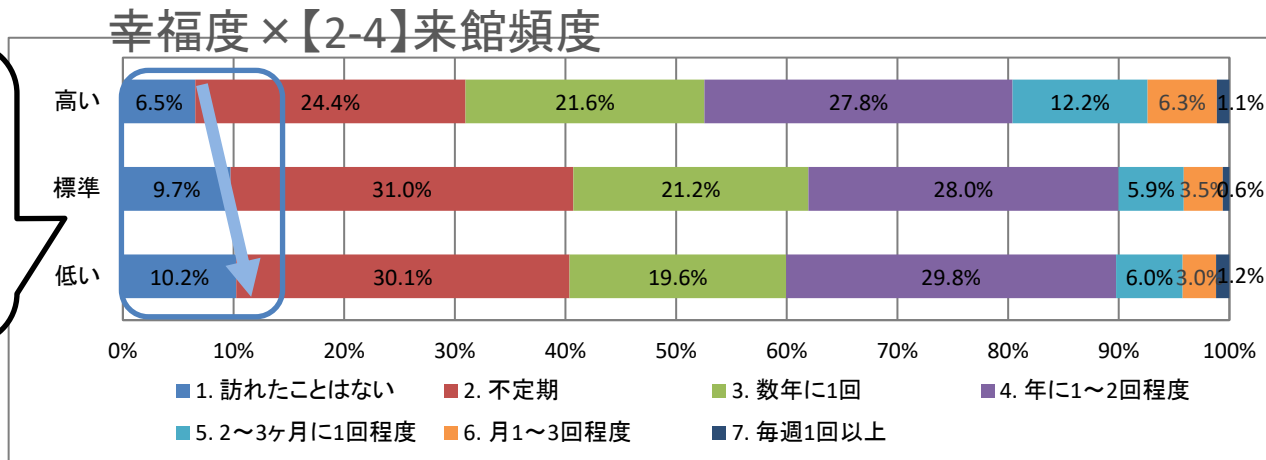
○幸福度 × 文化芸術鑑賞頻度(設問1-1)

幸福度が低いグループほど「まったく鑑賞していない人」の割合が多い傾向にある。



「月一回以上鑑賞している」人の割合は変わらない

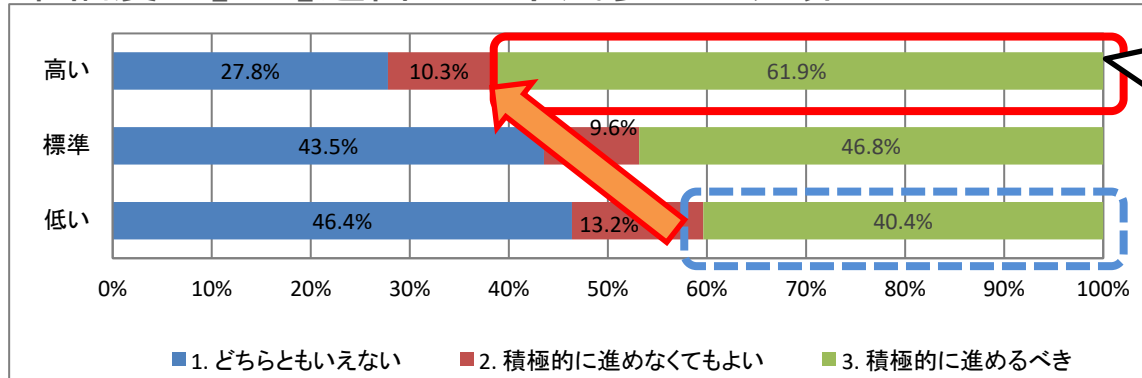
パルテノン多摩への来館頻度においても同様の傾向が若干見られる。



調査結果(クロス集計)⑥

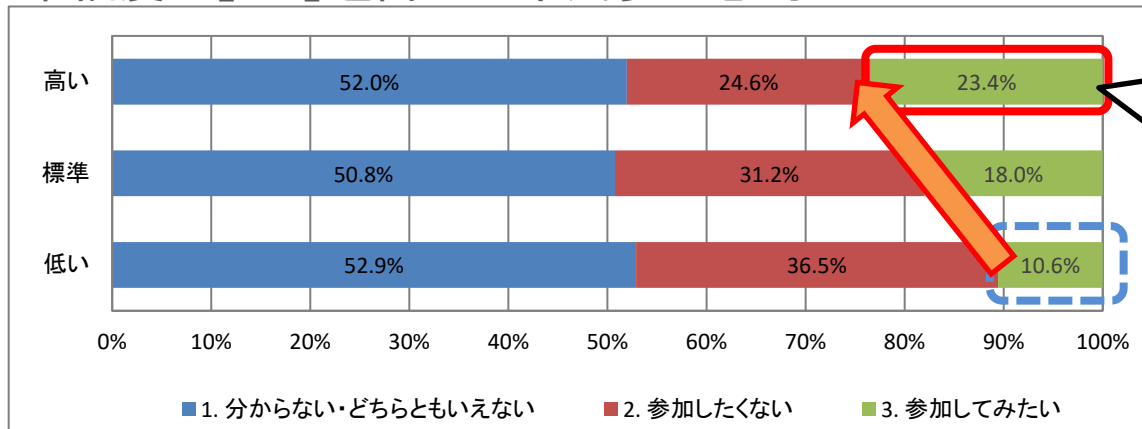
○幸福度×市民参加

幸福度×【4-5】運営への市民参加の是非



幸福度が高いグループの方が「市民参加を積極的に進めるべき」と回答する割合が高い。

幸福度×【4-6】運営への市民参加意向



割合は減少するものの、自身が市民参加をしたいかという意向についても、幸福度が高いグループほど割合が高い。

まとめ①

○来館しやすさに影響する属性

属性	来館しやすい	来館しにくい
年齢	高年齢層	若年齢層
性別	女性	男性
地域	住所が近い	遠い
学歴	大卒以上	大卒未満
職業	無職・学生	働いている人
世帯年収	大きな影響なし	

○来館しやすさに影響しない属性

世帯年収：収入が低い人が強く排除されているわけではない。

チケット料金が高すぎる、とも思われていない。

まとめ②

○年齢層による意識の違い

若年齢層(10代、20代)ほど	高年齢層(70代以上)ほど
パルテノン多摩で何をやっているか知らない	送迎などのサポートが必要
忙しく時間的余裕がない	テレビ・CD・インターネットなどで十分
有名な人に公演してほしい	市民の相互交流を充実してほしい
マイナーでも良質な公演を希望しない	ワークショップなどの体験・参加型事業を希望しない
学校や福祉施設と連携してほしい	
子ども広場に関心がある	

○若年層はパルテノン多摩が何をしているか知らず、有名な出演者の公演でないと鑑賞したい思わない。「パルテノン多摩が何をしているか」「公演している人が何者か」を知ってもらう必要がある。

○高年齢層は来館への物理的ハードルが高い。また文化活動そのものよりも市民の相互交流を期待している。